

令和 8 年地域井戸端会 報告書

開催日時	令和 8 年 5 月 21 日(木)18 時 30 分～20 時 30 分		
開催場所	三保まちづくりセンター	参加人数	2 人
出席議員	岡本正友・遠藤佑之・小川稔宏		
テーマ別に 出た意見	【総務委員会】防災と避難行動計画について ～災害が起きたらどうしますか？自分と家族を守るための行動～ ・58 年の時は消防団で「避難をしてくれ」と先行的にやり、怪我人や亡くなった方はいなかった。経験した人が少なくなり当時の状況がわからなくなる。「自主防災組織」は全部に立ち上げたがその後動きがなく、高齢化で自治会をやめたところもある。 ・経験者が減るなか継承のため 12 年前から水害の慰霊祭を兼ねた「灯籠祭り」をやっている。小学 6 年生の図工時間に灯籠作りを教え、前段で当時の写真スライドを見せながら話をしている。 ・三隅では防災無線と屋外スピーカーの両方で「異常な災害だから早く避難してください」と設備が浸かるまで放送を続けてくれた。美保地区は自主防災組織が出ているので、自治会長に安否確認をしてもらい集約して本部に連絡する体制になっている。 ・58 年の時は三隅支所の方は、ご飯を炊けるだけ炊いてジャーを持ち寄り、神社の方はお稲荷さんの湧き水で飲み水を確保した。食料は米屋さんからの米やそうめん、醤油などを軽トラで神社へ運んだ。3 日目ぐらいに、福浦に救援物資が船で運ばれてきた。神社の資料館の中の大鍋 2 つでご飯を炊き、おにぎりを作って食べた。2 週間ぐらい泊まり込みだった。自衛隊が来たのは 5 日目頃で主に瓦礫の撤去だった。 ・防災士は美保地区には 1 人、三隅のあと 3 人も全部消防団。若い世代が消防団に入っていないので別に防災士を養成しないといけない。マイタイムラインの計画は良い。浸透のための出前講座や自治会での消防団の説明が大事。 ・災害時だけでなく普段から「向こう三軒両隣の声掛けを」		

	と言っている。独居が多いので普段から声かけしていれば、いざという時に自分の家の 2 階に呼んで避難させるという話もしている。
	【文教厚生委員会】子どもや高齢者の暮らしの困りごと ・子どもの数、古湊地区は 1 軒に小学生が 2 人だけ。美保地区全体でも 20 人いるかどうか。去年の出生数は三隅エリアで 6 人。 ・学校給食のことで地域協議会でも出たが、人数が減ると一人当たりのコストが上がるという話があるが給食費の負担軽減に力を入れてほしい。 ・子供の数全部で 30 人はいない。 ・都会から山間部（三隅）へ留学する制度などかどうか。 ・三隅に来てもらうには。そこが課題。 ・若い人にもっと来てほしい。しかし働くところがない、 ・魚釣りはあくまで趣味。 ・三隅は浜田で・岡見は益田へ買い物に行く。 ・大きい民間企業がない。学校給食、こどもが減るから人数割になって割高になるのでは。

	【産業建設委員会】 100 年先に残したい浜田の食 ・ 漁協の養殖事業をもっと進めてほしい。マグロも浜田沖で獲れても境港へ持っていかれる。せっかく高度な施設を作ったのに利用しないともったいない。もっと県内の漁船に声をかけて浜田に揚げてもらえば、水産業は活性化するはず。ノドグロばかり都会に送るのではなく地元でも美味しいものが食べられるようにしてほしい。
自由意見	【総務委員会】 ・ この辺はスーパーがなく、相乗りタクシー制度を使って買い物したり、月に一度ここで野菜販売している。予算の問題もあるが買い物支援をもう少し充実させたい。 ・ 防災行政無線がデジタル化されて新しくなる。美保地区には2か所にしかなく、田ノ浦の向こう側は聞こえない。屋外スピーカーの設置位置が適切かどうかを確認してもらえないか。
	【文教厚生委員会】 ・ 都会からの移住もいいが、隠岐の海士町（あまちょう）のような魅力ある「留学制度」があれば増えると思う。三隅は飛行機ですぐ来れ、隠岐に行くより楽。受け入れ体制を整え若い者が集まる町にしていきたい。今度リハビリテーションカレッジの学生との地域授業があるので楽しみにしている。 ・ 隠岐の海士町のような高校生と地域の人が密着した留学制度があればいい。水産高校、浜田高校でも寮ではなく「里親制度」みたいに3年間その子を地域で見ることで三隅の良さを知ってもらおう。預かる側も大変だが、お寺とかね、まちづくりセンターが関わり仕組みができると楽しい町になりそう。

	【産業建設委員会】 ・広島の方から空き家を買って魚釣りに来られる方はいるが「魚釣りは趣味だから」という。夏場に家族でキャンプ代わりに来ても定住にはならない。若い人に来てほしいが、働く場所がないから残らない。キーパーも機械化で人も少なくなり昔に比べて半分になっている。 ・水産は瀬戸ヶ島の養殖とアジフライに期待している。そうした場所があれば働く場所もできる。
--	--

令和 8 年 5 月 25 日 小 川 稔 宏